



極東開発工業株式会社

証券コード：7226



第81期 期末決算のご報告

2015年4月1日～2016年3月31日



## トップメッセージ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

去る2016年4月に発生しました熊本地震で被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、2015年4月1日から2016年3月31日までの当社第81期営業の概況についてご報告申し上げます。

### ■ 2016年3月期の概況

当連結会計年度における我が国経済は、政府の経済政策などにより企業収益や雇用・所得環境などで一部回復が見られたものの、中国および新興国における景気の減速や中東情勢の悪化などにより足踏み状態となり、景気は減速感を抱えながら推移しました。

このような状況下、当社グループは国内・海外ともに企業価値向上のための施策を積極的に実行しました。

この結果、当連結会計年度の業績は前連結会計年度と比較して、主力である特装車事業が増加したこと等により、売上高は4,531百万円（4.6%）増加して103,862百万円となりました。損益面では、営業利益は1,082百万円（11.5%）増加して10,500百万円、経常利益は352百万円（3.8%）増加して9,679百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,701百万円（39.3%）増加して6,034百万円となりました。

## ■ 今後の見通し

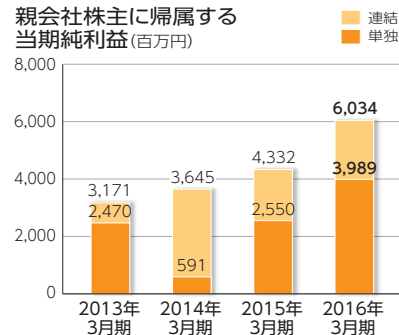
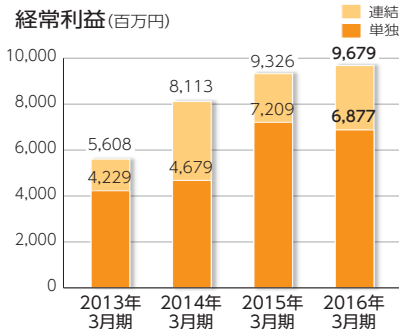
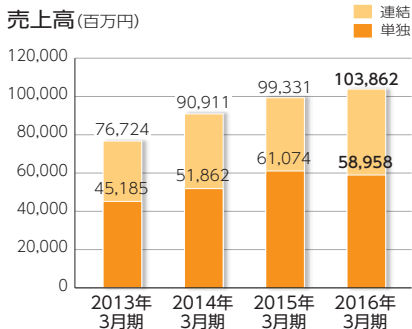
我が国経済は、雇用・所得環境および企業収益、設備投資の鈍化が懸念されるほか、原油価格や為替・株価の不安定感に加え海外経済の伸び悩みや政情不安といった要因を背景として先行き不透明なまま推移するものと見込まれます。

当社グループは、後述の**新中期経営計画2016-18 ~Value up to the Next~**（3カ年計画 2016年4月1日～2019年3月31日）の着実な実行により、売上・利益の確保および企業価値の一層の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月 取締役社長 **高橋和也**

## ■ 業績ハイライト



# 新中期経営計画 2016-18 ~Value up to the Next~

当社グループでは、前中期経営計画「**Next Step 2015**」～さらなる飛躍に向けて～ が2016年3月期をもちまして計画期間の満了を迎えました。国内特装車市場が想定を大幅に上回って推移したこともあり、グループ業績目標を達成することができました。

新中期経営計画では3カ年計画（2016年4月1日～2019年3月31日）とし、業績目標を2019年3月期で連結売上高1,000億円以上、連結営業利益90億円以上を目指します。

## 基本方針

当社グループは、発展的・継続的に成長し、顧客や社会から広く選ばれる企業グループとなるために、確固たる収益基盤の確立および新たな収益源確保のための施策を着実に実行し、これらに対し、経営資源を積極的に投入します。

### 国内収益基盤の強化

国内は長期的・全社的視野から選択と集中を推し進め、物流・環境系製品のシェアアップ、ストックビジネスの拡大等の取組みにより、収益基盤をさらに強化し、利益率の向上を目指します。

### 海外売上上の確立

極東開発グループ一丸となった取組みで将来の重要な収益源である海外事業を成長軌道に乗せます。

### M&A・新規事業の推進

戦略的なM&A・新規事業を積極的に推進し、新たな成長ドライバーの獲得を図ります。

### 企業品質の向上

より高品質な商品（製品・サービス）の提供と、安全・コンプライアンスを基本とし、持続的成長を創るための健全な企業風土の構築に注力します。

## 重点戦略

1

特  
装  
車  
事  
業

- ①重点製品(テールゲートリフタ、ごみ収集車、脱着ボデー車、冷凍バン)のシェアアップ
- ②将来の長期展望を見据えた戦略的かつフレキシブルな生産体制の再構築
- ③定期巡回サービス・24時間対応拠点の拡大等による顧客満足度の向上およびストックビジネスの基盤強化
- ④世界で通用する性能と品質を備え、業界をリードする製品群の構築

2

環  
境  
事  
業

- ①リサイクル施設における営業力・提案力の強化や他社との共同参画による受注確保
- ②省エネ化の提案やグループ間の連携強化等によるアフターサービスや運転受託の収益力強化
- ③バイオガスプラント等の新規分野・新製品の事業化推進

3

パ  
キ  
ン  
事  
業

- ①立体駐車装置におけるリニューアルやアフターサービスへの注力
- ②コインパーキングにおける大型施設も含めた新規事業地開拓等による収益確保
- ③グループ連携による海外市場の開拓等、新たな収益源の確保

## 長期ビジョン

上記の施策を推進するにあたり、当社グループは本計画期間以降に目指す姿として、“**持続的・発展的に成長し、広く選ばれるKYOKUTO**”を掲げ、①営業利益率(国内)10%以上、②海外売上高100億円以上、③M&A・新規事業による売上増を図り、連結売上高1,200億円以上を目指してまいります。

4

海  
外  
事  
業

- ①インド工場・インドネシア工場における生産量・シェアの確保・拡大、タイ工場の生産・販売体制の早期確立
- ②現地パートナーとの提携推進、未開発マーケットの開拓等による輸出の拡大
- ③海外人材育成の推進、海外向け製品開発におけるグループ間連携強化

5

企  
業  
品  
質  
の  
向  
上

- ①お客様の視点に立った品質意識の向上や品質管理等に取組み、選ばれ続ける品質を確立
- ②基盤となる健全な企業風土の構築(安全・安心な職場環境づくり、コンプライアンスの徹底、技術・技能伝承の仕組みづくり)
- ③持続的成長を創る人材・組織の構築(次世代リーダーの育成、海外事業強化を支える仕組みの構築)
- ④有効な株主還元策の実施による株主満足度の向上(連結配当性向約20~30%を想定)

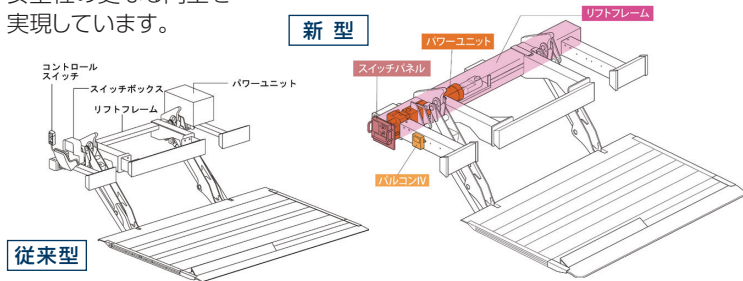
パワーユニット内蔵・スイッチパネル一体化でよりスマートな外観に！

## 後部格納式テールゲートリフタ 「パワーゲート® GⅡ1000／GⅢ1000」をモデルチェンジ

後部格納式テールゲートリフタ「パワーゲート GⅡ1000／GⅢ1000」をモデルチェンジし、発売いたしました。

今回のモデルチェンジは、従来型では車両側面の右舷側に別体設置であったパワーユニット（パワーゲートの動力源）と、同じく左舷側に別体設置であったスイッチボックスを一体化して本体に内蔵することにより、スマートな外観と工具箱等の艀装品取付スペースの拡大を図ったほか、使用状況等が一目で分かりサービス性の向上を実現するLEDディスプレイをスイッチパネル内に新設しました。

さらに、積荷を確認しながら自由な位置でパワーゲートを操作可能なパルコンⅣ（ワイヤレスリモコン）を標準装備とし、荷役作業時の操作性と安全性の更なる向上を実現しています。



# 「2016NEW環境展」に出展

2016年5月24日(火)～27日(金)に東京ビッグサイトで開催された「2016NEW環境展」に出展いたしました。

本年は各セグメントのPRのため2箇所にブースを出展し、特装事業ブースでは都市型ごみ収集車および4トン脱着ボデー車の展示、環境事業ブースでは破碎機や突き押し式成形機などの模型やパネルの展示を行いました。

特装事業  
ブース



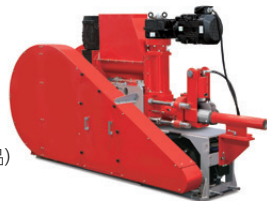
環境事業  
ブース



4トン脱着ボデー車「ハイパースイング・フックロール」



都市型ごみ収集車「スライドパック」(参考出品)



突き押し式成形機

## 【その他出展製品】

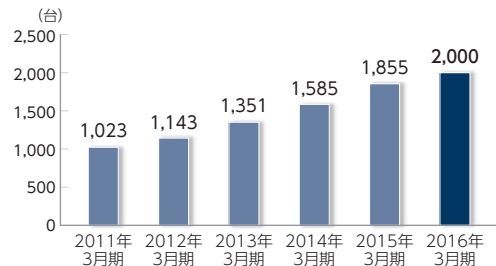
- ・破碎機「極東・トレマッシュ®」
- ・移動式破碎機
- ・バイオガスプラント
- ・押切式タタミ切断機

## 工場紹介 vol.1 三木工場

三木工場は、1979年にコンクリートポンプ車と機能部品の生産工場として操業しました。その後、1996年にタンクローリを製造する伊丹工場、1997年にごみ収集車を製造する西宮本社工場を統合し、現在では敷地面積100,311㎡の国内主要工場の一つとして稼動しています。

製造製品はコンクリートポンプ車、ごみ収集車、タンクローリ、脱着ボデー車、各工場で使用される機能部品としており、2016年3月期には過去最高となる2,000台を生産しました。

### ■ 三木工場年間生産台数



コンクリートポンプ車  
(スウィーズグリート®PH50B-18)



16kl石油タンクローリ



自動化による省人化と品質向上

## 特装車製造ロボットを導入

### ①トラニオン製造ライン

三木工場ではダンプカー用シリンダを月に1,000本から1,500本生産しています。シリンダにはトラニオンと呼ばれる、大きなものでは数10kgにもなる重量部品が用いられますが、このトラニオン加工の省力化、効率化を進めるため、ロボット付き自動設備を導入しました。この新設備導入により効率化が図られ、また、24時間連続で無人運転できるため生産量を2倍にすることが可能になりました。

加工は、マグネットハンドを付けたロボットが全自動で行い、鍛造素材を取り出します。その後、全部で6つのロボットハンドを駆使し、正確なキャッチングで部品の姿勢を整えながら工作機械へ移送し、加工が行われます。

### ②ごみ収集車用ボデー自動溶接ライン

ごみ収集車用ボデー製缶ラインでは、ロボットが主な溶接部の加工を行っています。

溶接加工長は、外面と内面をあわせて1台当たり約30メートルもありますが、この溶接加工をロボットで行うと90分程度で終わることができ、省人化と作業効率アップにつながっています。

また、外面溶接では大きなボデーをポジションにより360度回転させることによって下向きで全てが溶接されることおよびレーザーセンサを採用したことにより曲線部・薄板重ね溶接部の加工が安定して行えることで、品質向上に大きく貢献しています。



トラニオン製造ライン



トラニオン

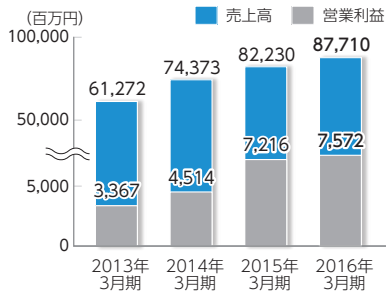
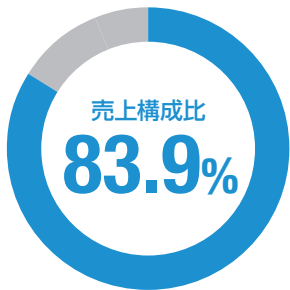
ダンプシリンダ



ごみ収集車用ボデー自動溶接ライン

## ■ セグメント別概況

### 【 特装車事業 】



国内の特装車市場は、物流関連車両の需要に支えられ堅調に推移しました。当社グループは重点拡販製品であるテールゲートリフタ、トレーラ、ごみ収集車をはじめとした製品の受注確保を図り、生産工場において自動化の推進による合理化を進めました。研究開発も推進し、2015年7月には中型車の機動力に大型車並みの最大吐出能力を実現した新型コンクリートポンプ車「ピストンクリート® PY90-17」を、10月には吊上げ能力および作業スピードを大幅に向上させた新型脱着ボデー車「ハイパースイング・フックロール®」を、2016年1月には動力源（パワーユニット）を



アルミタンク給水車



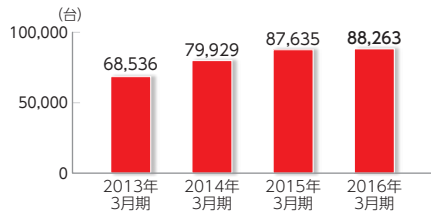
eパッカー®ハイブリッド（回転板式パックマン®）

本体に内蔵しスマートな外観を実現した新型後部格納式テールゲートリフタ「パワーゲート® GII1000/GIII1000」を発売するなど新製品も積極的に市場投入しました。

海外は、タイ王国において当社と当社連結子会社の日本トレクス株式会社および現地企業2社の合併による、バンボデーおよびダンプトラック等の生産・販売拠点となるタイ工場 (Trex Thairung Co., Ltd.: プルワックデー郡) が2015年10月より稼動しております。今後は当社グループの業績に早期に寄与できるよう進めてまいります。

これらの結果、売上高は5,480百万円 (6.7%) 増加して87,710百万円となりました。営業利益は、売上高の増加に伴い、355百万円 (4.9%) 増加して7,572百万円となりました。

### ■ 国内普通トラック登録台数の推移



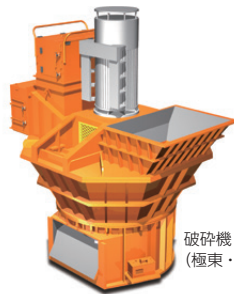
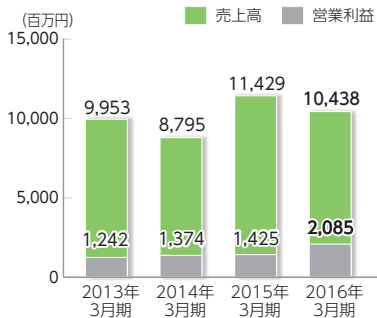
ウイングセミトレーラ



コンクリートポンプ車  
(ピストンクリート®)  
PY90-17

## ■ セグメント別概況

### [ 環境事業 ]



破砕機  
(極東・トレマッシュ®)



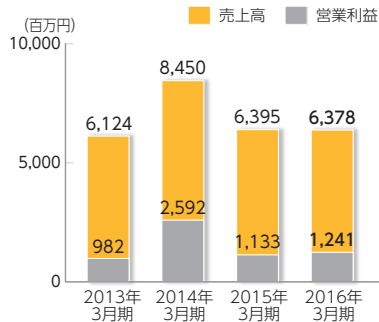
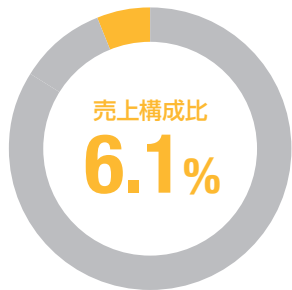
リサイクルプラザ (草加市)

プラント建設では新規物件の受注活動に努め、2015年7月に館林衛生施設組合様、2016年3月に山口県長門市様、茨城県水戸市様などから4件の建設工事および1件の運営受託事業を受注しました。また、既存の施設におけるメンテナンス・運転受託および受注済物件の建設工事にも注力しました。

2015年5月にコーンズ・アンド・カンパニー・リミテッドと

技術提携を行ったバイオガスプラント事業では、技術導入および市場動向の調査と並行して同社と共同でプラントの建設工事を進めました。損益面ではプラント部門の工事進行基準売上の減少により、売上高は990百万円(8.7%)減少して10,438百万円となりました。営業利益は660百万円(46.3%)増加して2,085百万円となりました。

## [ 不動産賃貸等事業 ]



コインパーキング  
(P.ZONE®)



立体駐車装置  
(レントウパズル® HS40)

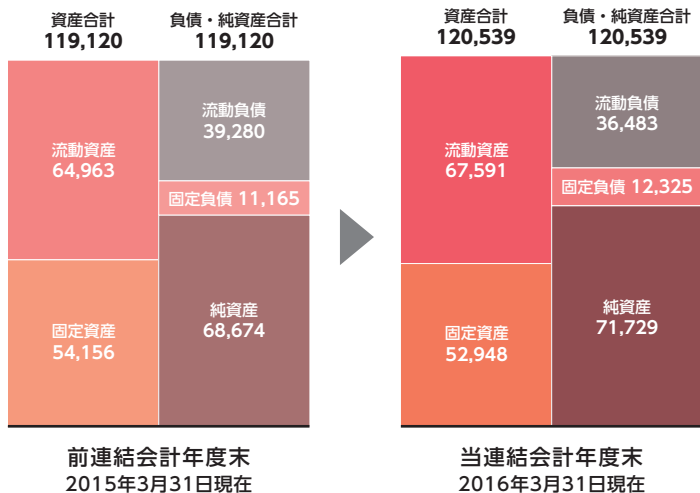
立体駐車装置は厳しい市場環境でしたが、ストックビジネスとしてリニューアルおよびメンテナンスの受注に注力しました。コインパーキングは採算性の高い事業地の選別およびコストダウンにより利益を確保しました。また、メガソーラー発電所

は安定的に稼動し利益に貢献しました。

これらの結果、売上高は16百万円 (0.3%) 減少して6,378百万円となりました。一方で、営業利益は107百万円 (9.5%) 増加して1,241百万円となりました。

## ■ 連結財務データ (日本基準)

### 連結貸借対照表の概要 (百万円)



### ..... ポイント解説 .....

総資産は前連結会計年度末と比較して1,419百万円(1.2%)増加して120,539百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金が増加したことなどにより2,627百万円(4.0%)増加して67,591百万円となりました。固定資産につきましては、投資有価証券の減少などにより1,208百万円(2.2%)減少して52,948百万円となりました。

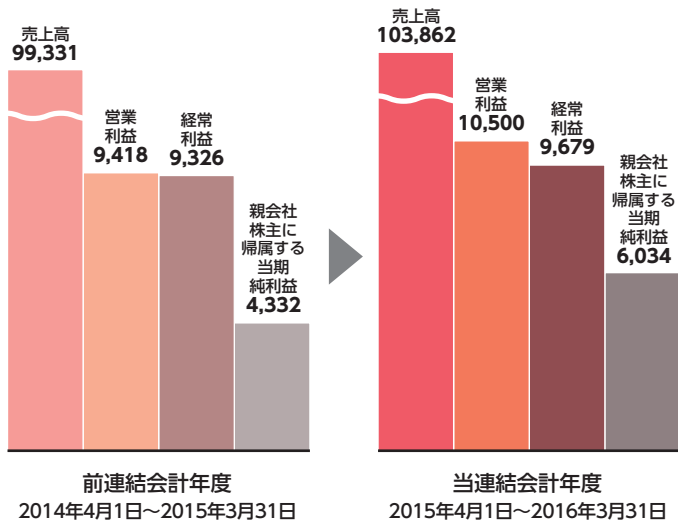
負債につきましては、流動負債は短期借入金や支払手形及び買掛金の減少などにより2,796百万円(7.1%)減少して36,483百万円となり、固定負債は長期借入金の増加などにより1,160百万円(10.4%)増加して12,325百万円となりました。

また、純資産につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことなどにより3,054百万円(4.4%)増加して71,729百万円となりました。

なお、当連結会計年度末現在の自己資本比率は59.5%(前連結会計年度末57.6%)となりました。



## 連結損益計算書の概要 (百万円)



### ..... ポイント解説 .....

主力の特装車事業の需要が想定を上回る水準で推移する中、グループ一丸となって受注確保ならびに生産対応に努めた結果、売上高および利益につきましてそれぞれ増加いたしました。

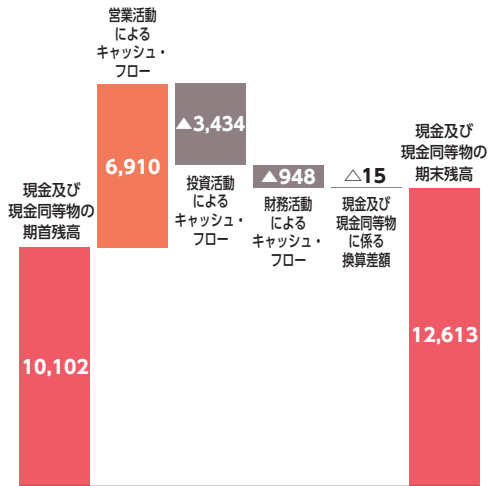
これにより連結ベースで売上高は103,862百万円、営業利益は10,500百万円、経常利益は9,679百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は6,034百万円となりました。

今後とも当社グループでは更なる業績の拡大に向けて引き続き諸施策に取り組んでまいります。

.....

## ■ 連結財務データ (日本基準)

### 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



当連結会計年度  
2015年4月1日～2016年3月31日

### ..... ポイント解説 .....

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて2,511百万円(24.9%)増加して、12,613百万円となりました。その主な内訳は次のとおりです。

#### ・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金収支は、6,910百万円(前年同期比+5,812百万円)となりました。これは税金等調整前当期純利益の計上などによるものです。

#### ・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金収支は、△3,434百万円(前年同期比+743百万円)となりました。これは固定資産の取得による支出などによるものです。

#### ・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金収支は、△948百万円(前年同期比+272百万円)となりました。これは短期借入金の返済などによるものです。

.....



## 利益還元について

当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化をはかりながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めております。

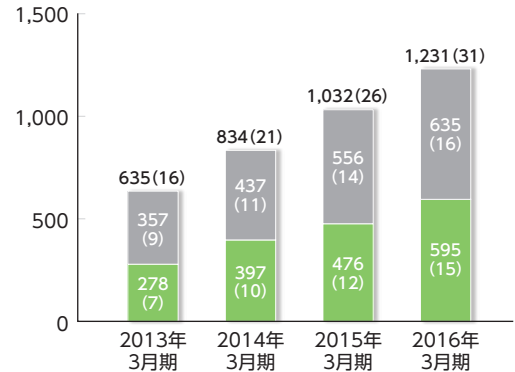
## 配当について

2016年3月期の期末配当金につきましては、前期末配当金より1株当たり2円増配の16円とさせていただきます。

これにより、中間配当金を含めました年間配当金は、前年実績の26円と比較して1株当たり5円増配の31円となります。

## 配当総額の推移

■ 中間配当総額 ■ 期末配当総額 (百万円)  
※ ( ) は1株当たり配当金 (円)



## ■ 企業データ

### 【会社概要】(2016年3月31日現在)

商号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
設立	1955年6月1日
資本金	11,899,867,400円
従業員数	連結2,485名 単独978名

### 【役員】(2016年6月28日現在)

取締役会長	筆谷高明
代表取締役社長 最高執行責任者	高橋和也
代表取締役専務 専務執行役員	近藤治弘
取締役 常務執行役員	杉本治己
取締役 常務執行役員	米田卓
取締役 常務執行役員	酒井郁也
取締役 常務執行役員	西川柳一郎

社外取締役	木戸洋二
社外取締役	道上明
常勤監査役	高島義典
監査役	植山友幾
社外監査役	楠守雄彦
社外監査役	乗鞍良彦
執行役員	則光健男
執行役員	堀本昇
執行役員	加藤定宣
執行役員	櫻井晃也
執行役員	布原達也
執行役員	栗山裕章
執行役員	細澤幸広
執行役員	原田一彦

## ■ 株式データ (2016年3月31日現在)

### [ 株式の状況 ]

発行可能株式総数 170,950,672株

発行済株式総数 42,737,668株

株主数 4,296名

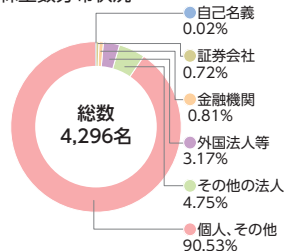
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	1,600	4.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社みなと銀行退職給付信託口)	1,498	3.77
RBC ISB S/A DUB NON RESIDENT/TREATY RATE UCITS - CLIENTS ACCOUNT	1,200	3.02
極東開発共栄会	1,168	2.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,096	2.76
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012	2.54
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	901	2.26
宮原 幾男	843	2.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	837	2.10
極東開発従業員持株会	777	1.95

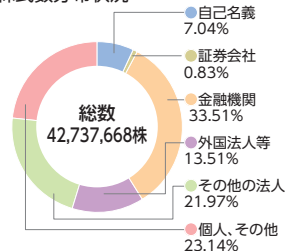
(注) 持株比率は、当社が保有する自己株式 (3,008 千株) を控除して計算しております。

### [ 株式分布状況 ]

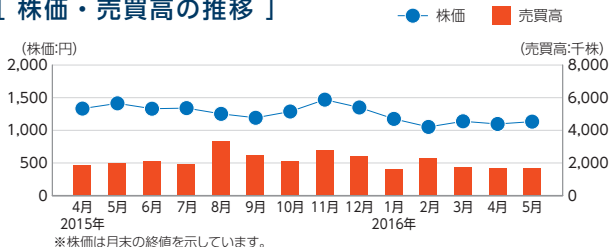
株主数分布状況



株式数分布状況



### [ 株価・売買高の推移 ]



## [ 株主メモ ]

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	電子公告 当社ホームページにて掲載 ( <a href="http://www.kyokuto.com/">http://www.kyokuto.com/</a> )
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所市場第一部

**Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.**

## <ご注意>

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 経営企画部

TEL:0798-66-1500

URL:<http://www.kyokuto.com/>

MAIL:[kkkikaku@kyokuto.com](mailto:kkkikaku@kyokuto.com)

社名・商品名・ロゴ等は各社の商標または登録商標です。

